

自 己 評 価 表

(上浮穴高等学校)
学校番号(27)

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）
【森林環境科】 ①林業や林産物活用、農業に関する科学的知識と技能を身に付けたスペシャリストを育成します。 ②個性に応じ、進路を切り拓き、社会に参画することのできる意欲と力を育成します。 ③地域の特色を活かした産業の活性化や地域の持続的な発展に貢献することのできる課題解決力を育成します。 ④自己の考えを相手に的確に伝えることのできる発信力を育成します。 ⑤人を思いやり、協働することのできる想像力、傾聴力を育成します。	【森林環境科】 ①1学年で育林、木材加工、園芸について一通り学んだあと、2学年から、3分野に分かれて専門性を高めます。また、大学等への進学に向け普通教科も選択できる教育課程を設定しています。 ②安心して実習に取り組めるよう段階的に授業を進め、チェーンソーや刈払機等の資格取得に取り組みます。また、地元産業等に関する進路研究を行い、自己の進路を見極めます。 ③林業インターンシップ（業界の先輩との交流会、高性能林業機械実習、スマート林業体験等）や町内の関係機関での実習等を通して、地域の課題を発見し解決する力を高めます。また、ドイツ等での海外研修に参加し、持続可能な森林資源の活用について学ぶこともできます。 ④農業クラブ活動、課題研究等での発表を通して、発信力を高めます。 ⑤町内の子ども園、幼稚園、小・中学校、高齢者施設等との交流学習など、多様な世代の方々と交流を通して、コミュニケーション能力を高めます。
【普通科】 ①生涯にわたって主体的に学び続けることのできる探究心と確かな学力、ICT活用力を育成します。（普通科） ②個性に応じ、進路を切り拓き、社会に参画することのできる意欲と力を育成します。 ③地域の特色を活かした産業の活性化や地域の持続的な発展に貢献することのできる課題解決力を育成します。 ④自己の考えを相手に的確に伝えることのできる発信力を育成します。 ⑤人を思いやり、協働することのできる想像力、傾聴力を育成します。	【普通科】 ①1学年で共通科目を学んだあと、2学年から、就職希望者及び私立大学、短大、専門学校等への進学希望者対象の「総合実学コース」と、国公立大学等への進学希望者等対象の「総合文理コース（理系・文系）」のいずれかを選びます。興味・関心に応じ、多様な科目選択もできます。また、学習の多くの場面で、一人1台端末を活用します。 ②少人数指導や徹底した個別指導、習熟度別講座、ICTを活用した課題の提供等を通して、学力の伸長を目指します。商業や家庭等に関する資格取得にも取り組みます。また、大学や地元産業等に関する進路研究を行い、自己の進路を見極めます。 ③「総合的な探究の時間（くまたん）」において、町内の行政、観光業、農業等に関するフィールドワークを行い、地域の課題を発見し解決する力を高めます。また、ドイツ等での海外研修に参加し、持続可能な町づくりについて学ぶこともできます。 ④「くまたん」、委員会活動等での発表活動を通して、発信力を高めます。 ⑤町内の子ども園、幼稚園、小・中学校、高齢者施設等との交流学習など、多様な世代の方々と交流を通して、コミュニケーション能力を高めます。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
シグ ョラ ンデ ー・ユ ボエ リ	グラデュエーション・ポリシーの達成	教師 グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上を目指す。	A	「十分に成長している」「成長している」と答えた教職員の割合が75%であった	年度初めに周知し、常にグラデュエーションポリシーを念頭に置いた教育活動を継続していく。
学 習 指 導	基礎学力の定着	教師 少人数指導や習熟度別指導を効果的に活用し、個に応じた指導を行う。 生徒 調査中、平均180分以上の家庭学習を行う。 数値目標 授業満足度100%を目指す。	B D A	「よくできている」39%、「だいたいできている」61% 平均161分で昨年度よりやや減少した。生徒自身も家庭学習が習慣になっていないと答えている生徒が65%いる。 内容、進度、説明の仕方、ICT活用の質問において、生徒から概ね肯定的な意見が得られた。	家庭学習時間が個々で大きく異なっている。継続して学習している者もいるが、半分以上の生徒は学習習慣があまり身につけていないと自身が認識している。学校として課題の量を考え、日々の学習習慣が身に付く仕組みを構築する。
生 徒 指 導	マナー・規範意識の育成	教師 社会規範や公衆道徳を守る意識が育つ機会を教育活動の中に設け、継続的に指導を行っている。 生徒 適切な言葉遣いをし、校則をはじめ社会のルールをきちんと守って生活をしている。 数値目標 笑顔で挨拶できる生徒の割合（目標値）100%（A87%以上B86～54%C53～21D20%以下）	B B A	「よくできている」28%、「だいたいできている」44%、「あまりできていない」28% 「よくできている」50%、「だいたいできている」46%、「あまりできていない」4% 「よくできている」59%、「だいたいできている」35%、合計92%	笑顔で挨拶できる生徒が増えている。規範意識については、レベルの低さを感じさせる生徒もいるので、教育活動全般でフォローしていく。
人 権 教 育	互いの思いやりと自尊感情の高揚	教師 生徒一人ひとりを大切にし、互いに思いやる学校づくりに努めている。 保護者 学校が一人ひとりを大切にし、互いに思いやる学校づくりを目指して指導していると考える保護者の割合9割以上を目指す。 数値目標 差別を「しない・させない・許さない」ような心がけている生徒の割合（目標値）100%（A87%以上B86～54%C53～21D20%以下）	B B A	「よくできている」42%、「だいたいできている」58% 「よくできている」31%、「だいたいできている」65%、「あまりできていない」4% 「よくできている」50%、「だいたいできている」46%、「あまりできていない」4%	多様性を認め、協働していこうという姿勢が身に付いてきている。特性のある子に対しても手を差し伸べる優しさがあるが、ルールやマナーを守れない子に対して、集団で厳しい面が強すぎるので、大人としてのふるまいを教えたい。
特 別 活 動	学校行事への積極的な参加	教師 魅力ある学校行事になるように工夫するとともに、学校行事において生徒の主体的活動を引き出すよう指導している。 保護者 子どもが学校行事に関心をもち楽しく参加していると考える保護者の割合90%以上を目指す。 数値目標 学校行事に主体的に参加している生徒の割合（目標値）100%	B B A	「よくできている」42%、「だいたいできている」47%、「あまりできていない」11% 「よくできている」52%、「だいたいできている」44%、「あまりできていない」4% 「よくできている」50%、「だいたいできている」46%、「あまりできていない」4%	自主自律の精神が身に付いてきて、少人数ながら学校行事が年々盛り上がってきている。今の方向性で進みたい。

進路指導	キャリア教育の充実と進路先の具体化	教師	3年間を見通した指導で、生徒に適切な進路情報を発信し、進路先の具体化を図る指導を行っている。	B	「よくできている」22%、「だいたいできている」72%、「あまりできていない」6%	就職に関しては、売り手市場の追い風の中、順調に内定をいただいた。町内の役場や森林関係の企業に就職する生徒も複数いて町に貢献できた。進学も国公立大学への進学が3名出るなど、一定の成果を上げた。町では若者に魅力ある雇用を生み出していく方針なので、本人たちの希望を尊重しつつ、地元への就職人数も維持していく。
		生徒	自分の進路決定に役立つ資料を収集したり、学校から提供を得ていると考えている生徒の割合8割を目指す。	B	「よくできている」26%、「だいたいできている」41%、「あまりできていない」23%、「できていない」10%	
		保護者	子どもが進学・就職などの進路について考えるようになったと考える保護者の割合9割以上を目指す。	B	「よくできている」26%、「だいたいできている」41%、「あまりできていない」23%、「できていない」10%	
		数値目標	就職内定率、希望進学率（目標値）100%（A87%以上B86～54% C53～21D20%以下）	A	就職内定率100%、希望進学率も100	
開かれた学校づくり	地域交流の充実	教師	交流学习を充実させ、総合的な探究の時間（くまたん）を積極的に活用することで、地域のために役立てる生徒を育てる。	A	「よくできている」78%、「だいたいできている」22%	地元イベントへの参加や協力など、少ない人数の生徒が本当に献身的によく頑張っている。隣接している小学校とも交流が盛んなので、今後久万中・美川中との交流を行っていく。
		数値目標	森林環境科の地域貢献活動及び交流活動年間25回以上、普通科生徒の地域活動参加年間2回以上を達成する。	A	予定していた小学校との交流授業のみならず、さまざまな地域交流を行った。また全校生徒でくまひなまつり準備を行った。	
	「上高通信」とHPの充実	教師	「上高通信」やHP、インスタ等の充実を図り、保護者だけでなく町民の方々に広くアピールできるような広報活動をする。	A	「よくできている」78%、「だいたいできている」22%	昨年度からははじめたInstagramの反響は大きく、若い世代のみならず、町内外の大人からの反響もある。こちらの方で情報発信していくのが得策である。HPの閲覧回数については伸び悩んでおり、常に内容を更新していく。
		生徒	学校のHPやインスタを閲覧したり、「上高通信」を読み保護者に渡している。	C	「よくできている」26%、「だいたいできている」41%、「あまりできていない」23%、「できていない」10%	
		数値目標	上高通信年間12回発行 HPアクセス数平均200/1日	C	上高通信は予定通り月1回発行された。HPアクセスは1日平均150程度であった。	
	学校行事や授業の公開	教師	体育祭・文化祭・授業公開・PTA行事等に際して、生徒の主体的な活動を見せられる企画・運営を行う。	B	「よくできている」16%、「だいたいできている」63%、「あまりできていない」16%、「できていない」5%	体育祭、文化祭のみならず、それ以外の行事でも保護者に参加していただけるよう配慮していく。公開授業はもっと参加者が増えるように工夫が必要である。来年度は学校訪問もあるので、保護者も含めて多くの方に授業をみていただける仕組みを考える。
		保護者	文化祭等の学校行事や授業公開などに参加したいと思うような工夫がされていると考える保護者の割合90%を目指す。	B	「よくできている」23%、「だいたいできている」71%、「あまりできていない」6%	
		数値目標	公開授業参加者数50人以上。	D	参加人数26名で、大きく目標に届かなかった。	
働き方	業務改善		・学年団・教科・各課内での情報交換や連絡を密にし、仕事の質を上げる。 ・IT機器等の有効利用や、仕事の重要度・緊急性の観点から仕分けや整理を行い、業務の効率化を図ることができる。	B	小規模校の強みを生かして、各部署で連絡を密に取り合い、効率的に仕事を行うことができた。仕事の合理化の意識も教職員に芽生えてきた。	各教職員が思い切って活動し、自分の特技を生かせるような組織づくりを日々目指していく。また、常に見直しを行い、新しいものを立ち上げるだけではなく、効率の悪いものはやめる勇氣も持ちたい。
	勤務時間の遵守		勤務時間外在校時間を毎月45時間以内とする。 100%（A87%以上B86～54% C53～21D20%以下）	B	1か月あたり平均6名の教職員（30名中）が45時間を超えている。主に部活動を熱心に行っている教員である。	

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。